

日本・ユニセフ保健分野協力：

ジャマイカに対する我が国緊急無償資金協力による薬品・ワクチン冷蔵保管室の視察

10月24日、渥美大使は、タフトン保健・福祉大臣、デュファイ UNICEF ラテンアメリカ・カリブ地域副代表、アンダーソン全国保健基金 CEO 等と共に、日本が UNICEF との連携の下に実施したコールドチェーン整備の最後の要素である冷蔵保管室（全国保健基金の倉庫に設置）の視察を行いました。

この冷蔵保管室は、日本が UNICEF を通じて行った中南米諸国に対するコールドチェーン整備のための緊急無償資金協力（2021年実施、6か国対象、計11.1百万米ドル）の一環です。この無償資金協力では、各国が自国のワクチン接種能力を高めるために冷蔵保管設備等のコールドチェーン機材を整備する資金を UNICEF を通じて供与しました。この事業において、ジャマイカには1.2百万米ドルが配分され、新型コロナウイルス対応のためにワクチン用冷蔵庫120、ワクチン運搬箱585、冷蔵箱375、遠隔温度確認機材281、及び冷蔵設備付きランドクルーザー2台が供与されました。さらにジャマイカの冷蔵技術者とコールドチェーン機材管理者300人が訓練を受けました。

この事業の結果として、ジャマイカは WHO の効果的ワクチン管理基準を満たすワールドチェーン機材を保有することとなり、また新型コロナだけでなく麻疹等のワクチンも全国で迅速に手配することができるようになりました。

この視察において渥美大使は、日本の対ジャマイカ経済協力の最優先の1つはユニバーサルヘルスケア、特に感染症への対応能力の強化である胸述べた。またタフトン大臣は、コロナ後においてジャマイカはさらに態勢を整え強靱になる必要があるとして、冷蔵保管室でのワクチンと薬品の保管は非常に重要と述べた。

